

## 福岡県立玄洋高等学校

### 今こそ見せる玄洋魂 目指すは君の日本一 ～なりたい自分への第一歩～

第11号は福岡県立玄洋高等学校の取組の紹介です。同校はキャリア教育を指導の軸ととらえ、学校行事やボランティア活動を通して生徒の能力を最大限に引き出し、生徒一人一人の「なりたい自分」を応援し実現させていく学校です。生徒一人一人の個性を大切にする主体性を重視した教育活動を通して、個に応じた幅広い進路選択を可能にしています。

### 第11回キャリア教育優良学校 文部科学大臣表彰 受賞

平成30年1月11日（木）に、「第11回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰式」が、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われ、玄洋高等学校が表彰を受けました。この表彰は、文部科学省が、「キャリア教育」の充実発展に尽力し顕著な功績が認められた教育委員会、学校、PTA団体等を表彰するものです。今回は全国で121団体が表彰を受け、福岡県内の学校としては玄洋高等学校が唯一の表彰校となりました。

玄洋高等学校は、アクティブ・ラーニング型授業やICTを活用した授業を推進するとともに、学校行事をはじめ、すべての教育活動で生徒の主体性を重視した教育活動を展開しています。また、大学進学や専門学校進学、就職を希望するすべての生徒のニーズに応えるために、「学び直し」や「習熟度別少人数授業」の実施、専門家の近くで職業を観察する「ジョブシャドウイング」や実際の職業を体験する「インターンシップ」の実施、地域の様々な行事等へのボランティア活動の実施など、キャリア教育を組織的、系統的に実践しており、今後もさらなるキャリア教育の充実発展を目指しています。

### 1 めざす生徒像・スローガン

- ・確かな学力を身に付け、自分の第一希望の進路を実現する生徒
- ・感性豊かで人に対する思いやりの心を持った生徒
- ・心身ともに健やかで、忍耐力があり、創造性と自主性に富んだ生徒

めざす生徒像について先生方が常に共通認識をもち、絶えず教科内及び教科間で密にコミュニケーションをとりながら、生徒を深い学びにつなげるための授業改善に取り組んでいます。

「今こそ見せる玄洋魂 目指すは君の日本一 ～なりたい自分への第一歩～」をスローガンに、生徒達は「時を守り、場を清め、礼を正す」指導をバックボーンとして、授業に対する目標と見通しをもって毎日の学習に取り組んでいます。

### 2 アクティブ・ラーニング型授業の導入

#### (1) 自主的な勉強会と「玄洋高校AL通信」

平成27年12月3日（木）に校内AL勉強会事務局を中心に、有志の先生方で勉強会が始まり、その様子が教職員向けの「玄洋高校AL通信」第1号で詳しく紹介されました。「玄洋高校AL通信」は現在、第10号まで発行を重ね、校内での勉強会や、先生方が自主的に参加された校外の研修会の報告等盛りだくさんの内容です。校内での勉強会は、参加の先生方を生徒に見立てて模擬授業を行う等、まさに、ALをALで学ぶことができる場です。最初は若手の先生方が中心の取組でしたが、徐々に教科や年齢を超えて多くの先生方同士で教え合うようになりました。

地道な取組が広まるにしたがって、授業に変化が起きました。以前よりも顔を上げて意欲的に取

り組む生徒が増え、考査の結果の改善にもつながりました。また、授業中の活動が増えることで生徒の個性が見えやすくなったことで、教員からの個に応じた声かけの機会が増え、生徒間の人間関係だけではなく、生徒と先生の人間関係も良好になりました。

## (2) 「アクティブ・ラーニング教室」の活用

平成28年には既存の教室を改装した「アクティブ・ラーニング教室」が誕生しました。電子黒板が設置されているのに加えて、グループ学習等で机の並べ替えがスムーズにできるように床面もデザインされています。この「アクティブ・ラーニング教室」を有効活用し、主体的・対話的で深い学びへと生徒を導く授業が展開されています。

### 【アクティブ・ラーニング教室での授業の様子】



## 3 アクティブ・ラーニング型授業導入の成果

アクティブ・ラーニング型授業を導入して、生徒の学習に対する意識が明らかに変化しています。粘り強く主体的に学習に取り組む生徒や進路実現に向けてチャレンジする生徒が増加し、学習に対する意欲が全般的に向上しています。

学校活性化アンケートについては「先生がよく関わってくれる」という生徒の記述が見られます。地道な取組の積み重ねによって生徒が大きく変容し、結果として先生の授業改善のモチベーションも向上しました。さらに、生徒と先生との信頼関係がより深まっています。

毎年実施している公開授業および授業後の研究協議には、近隣の中学校の先生も参加しており、「私が中学校で担当していた生徒が、生き生きと授業に参加している姿を見て、感謝の気持ちでいっぱいです」等の感想が多く寄せられています。

## 4 観点別評価の導入

本年度の1学年から全教科で観点別評価を導入し、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」のそれぞれの観点の評価するための学習活動を工夫しています。観点別評価は年次進行ですべての学年に導入します。実際の授業では、ルーブリックを用いた評価を取り入れ、毎授業のはじめに本時のめあて（目標）を生徒に示し、この授業で何を学ぶか、どのように学ぶかを明確にしています。生徒達からは、「ルーブリックにより見通しがもてるので、目標が明確になり、モチベーションが向上する。」という声が上がっています。ルーブリックの活用は、教師だけでなく、生徒にとっても目標設定のために大変有効であることがわかります。また、定期考査でも思考力・判断力・表現力等を問う問題を工夫して出題しています。

観点別評価については、生徒はもちろんのこと、学期ごとの三者面談で保護者の理解を得て、スムーズに導入できています。

## 5 今後に向けて

今後も教職員が一丸となって、「鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす」教育活動を展開していきます。「向学・礼讓・進取」の校訓のもと、社会の変化に主体的に対応できる「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成と国際的な視野を持った人材育成を将来ビジョンとし、それぞれの授業をより主体的・対話的で深い学びにつなげていくとともに、観点別評価の充実を図り、自ら考え、自ら表現できる生徒を育成していきます。そして全職員の共通認識のもと、「めざす生徒像」の実現に向けて、すべての教育活動で目的意識をもって取り組んでいきます。